東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年3月19日

マスジドと合同礼拝

ムスリムの皆様。わたしたちの教えは、愛情、慈しみ、相互援助、団結を保っていくことを目的として、多くの施設を造ってきました。その中でトップにくるものが、わたしたちの精神世界に平安をもたらす礼拝場です。わたしたちの預言者（彼の上に平安あれ）は、聖遷の際、まだマディーナにいたる前にはクーバ・礼拝場を、マディーナ到着後は預言者礼拝場を、自ら働かれ、人々を励まされながら建設されました。このことは、私たちの教えが礼拝場や共同体に重きを置いていることを示しています。礼拝場を建設する事に関して、クルアーンでは、「アッラーのマスジドは、ひたすらこれらの者（信者）によって管理されるべきである。（すなわち）アッラーと終末の日を信じ、礼拝の務めを守り、定めの喜捨をなし、アッラー以外の何ものをも恐れない者だけである。これらの者は、正しく導かれる者となるであろう。」（悔悟章第１８節）と仰せられておられます。預言者（彼の上に平安あれ）は、「誰であれ、偉大なるアッラーのご満悦を得るために礼拝場を建てるなら、アッラーも彼に天国であずまやを準備されるであろう。」とおっしゃられておられます。

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマド（彼の上に平安あれ）はムスリムたちに、常に共同体であるよう薦められ、また正当な理由もなく共に礼拝に来ない人たちを非難されました。合同で行われる礼拝が、一人で行う礼拝よりも徳が多いこと、また礼拝を行う為に礼拝場に向かう人の一歩一歩が、罪からの清めとなり、また階位をあげるものとなることを明らかにされました。

歴史を通し、このような信念のもと、礼拝場が建設され、合同礼拝に重きが置かれてきたのです。合同礼拝の為の集団は、礼拝場の装飾です。礼拝場はアッラーの観点から最も好ましいものです。「本当にマスジドは（凡て）アッラーの有である。それでアッラーと同位に配して他の者に祈ってはならない。」（アル・ジン章第１８節）という章句は、礼拝場が、アッラーと、そしてアッラーへの崇拝行為に固有のものであることを明らかにしています。礼拝場で共に礼拝する為に集まることは、偉大な創造主の客となることです。この聖なる場の、物質的、精神的な開発、復活は、合同礼拝の会衆によって実現するのです。

親愛なるムスリムの皆様。礼拝場は、その地域の社会的奉仕、結びつきにおいて、常に灯りがともり、周囲を照らす灯火のようです。礼拝場に来る人たちは、そこでお互いに知り合い、愛情や敬意の結びつきが生まれます。病人を訪問し、困っている人たちを助け、兄弟愛を抱きあい、平等であるという思いを新たにするのです。礼拝場は、人々がお互いに愛情を抱く上で媒介となるのです。 だから、礼拝場は私たちの共通の心臓であり、礼拝場に命があるなら、私たちにも命があるのだ、ということを認識しましょう。うんざりし、苦しめられ、希望を失った私たちの心が、礼拝場の精神的雰囲気によって力づけられ、活力を得るのだということを忘れないようにしましょう。現世の、人を惑わし、きりのない、限りのない欲望に対し、礼拝場で得た精神によってブレーキをかけることが出来るのだということを知っておきましょう。これらの為にも、礼拝場の物質的、精神的な開発、改良に努めましょう。